



本物の探究を目指して ～ティーチからファシリテートへの転換～

広島県探究的な学習の在り方に関する研究推進地域事業の指定を受けた本校は、昨年度（2年目）は、思考ツールで考えを深めさせ、ルーブリック評価をすることでゴールイメージを共有することができた。また、リフレクションの大切さや教師の見取り（評価）についても学ぶことができた。

そのような中で、本当に「主体的な学び」になっていたのか、「本物の探究」になっていたのか自問自答の結果、厳しく自己評価するならば、まだ教師主導の探究になっていたと言わざるを得ない。

よって今年度（3年目）は、児童が自分のしたいことや、次に必要なことを自由な発想で見つけ、新たな展開を繰り広げていけるような活動を、教師のファシリテーションによって導き出すような授業展開や単元構成をしようと考えている。

「ティーチ（教える）」から「ファシリテート（力を引き出す・促進させる・支え応援する）」への転換は、「主体的・対話的で深い学び」のキーワードでもあると考える。

（大竹市立大竹小学校・兼田 等）

- 4月8日 会計監査
 - 4月8日 第一回幹事会
 - 4月19日 県公連理事會
 - 4月20日 第一回理事會
 - 4月26日 第一回各委員會
 - 4月26日 第二回幹事會
 - 5月10日 県公連評議員會
 - 5月15日 県公連不祥事防止対策特別委員會
 - 5月25日 全連小理事會
 - 5月26日 全連小総會
 - 5月31日 県公連合同専門委員會
 - 6月1日 第74回県連小総會・研究大會
 - 6月2日 全連小事務担当者連絡協議會
 - 6月7日 第二回幹事會
 - 6月7日 教育研究全体委員會
 - 6月12日 県公連理事會・評議員會
 - 6月16日 全連小合同部會・合同委員會
 - 6月19日 県公連不祥事防止対策特別委員會
 - 6月20日 第一回総務會
 - 6月20日 第一回理事會
 - 6月30日 全連小広報担当者連絡協議會
 - 7月4日 第二回理事會
- （県民文化センター）
- （事） 県連小事務局
 - （東区） 東区民文化センター
 - （立町） 広島経済大学立町キャンパス
- ※会場の略号

事務局日誌



発行所
広島県連合小学校長会
事務局
東区光町1-11-5
地産ビル1003号
電話(082)263-6381
発行者 空本秀寿

本物の探究を目指して	1	委員会報告	3
事務局日誌	1	朝会講話	5
会長あいさつ	2	県教委だより	6
広島県連合小学校長会総会・研究大會	2	随想	6
退職校長紹介・新入会員紹介	3	あとがき	6

会長あいさつ



原点に立ち返り
幸福度を高める校長会に

会長 空本秀寿

広島県連合小学校長会は、永年にわたり、学校教育と学校経営に対する真摯な研究と実践を積み重ねるとともに、教育諸条件の整備に努め、小学校教育のさらなる充実と発展のために鋭意努力を続けてまいりました。本年度も、会員が一丸となり、是正指導を風化させることなく、新しい時代に対応しながら、地域社会から信頼され期待される学校経営を行ってまいりましょ

う。令和元年度末より、新型コロナウイルス感染症の感染拡大という危機的な事態に直面し、感染状況の予測が極めて困難な中、教育活動をどう進めていくかを常に模索し、試行錯誤を繰り返してまいりました。

本連合小学校長会も、コロナ禍の影響で、多くの行事等が制約され、総会・研究大会等に参加経験のある会員が少なくなくなっています。また、令和三年度から広島市小学校長会が、広島県連合小学校長会と組織上分離して活動を行うこととなるなど、県連小の運営面とともに組織自体も大きな転換期を迎えています。まさに、先行き不透明な中で正解のない問いに、いかにして立ち向かうのかが問われています。

そうしたときこそ、県連小が設立された意義や目標等、原点に立ち返り、本当に大切なことは何かを考え、どうすればそれを実現できるのか知恵をしぼり、周囲に協力を仰ぎながら、力強く前に進む県連小でありたいと思っています。

そこで今一度、原点に立ち返ってみたいと思います。今年度最初の初任者研修で「本県教育における現状と課題」と題して、校長先生自ら講義をされたことと存じます。講義の中心となる内容は、いわゆる「是正指導」でした。「是正指導」は、広島県に勤める教職員として、決して避けてはいけぬ、風化させてはいけぬ大切なものです。県教委は、この是正指導を、本県教育全体を根底から見直し、正常化させていく機会と真摯に受け止めました。その取組の柱として、法令等の遵守を通じた教育の「中立性」と、ありのままの教育を見せる「公開性」を掲げ、まの徹底と教育改革を推進してまいりました。先輩方の大変な努力により、今の広島県の教育の土台が築かれているわけです。是正を風化させないために、私たち校長は、是正の確実な定着と自律した学校経営に向けて、取り組み続けていく使命があります。

次に、不祥事根絶に向けての取組についてです。私たち校長は、教職員による不祥事は決してあってはならないという意識を強く認識し、所属職員の良い職場づくりを把握した上で、風通しのなりませぬ。しかしながら、いまだに不祥事を根絶できていない状況にあります。中でも最も深刻である、成長段階にある児童生徒に対する性犯罪・性暴力の事案が続発しています。とりわけ、令和四年度は、「教育職員等によ

る児童生徒性暴力等の防止等に関する法律」が施行されたにもかかわらず、性犯罪・性暴力事案が十五件と大幅に増加し、懲戒処分件数も二十二件となるなど、危機的な状況にあります。こうした状況を私たち校長は真摯に受け止めるとともに、これまでに取組んできたことに緩みがないか、ことあるごとに総点検していく必要があるとす。引き続き、私たち校長が危機感を共有し、お互いに支援・助言をし合いながら、不祥事根絶に向けて着実に行動してまいりましょう。

「SDGs」に掲げられた目標の一つで、生活への満足感や充実度、いわゆる「幸福度」を指す「ウェルビーイング (Wellbeing)」という言葉が注目されています。次期教育振興基本計画のコンセプトにも、「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」が掲げられています。子供たちの「ウェルビーイング」を高めるためには、教師の「ウェルビーイング」を確保することが必要です。教師の「ウェルビーイング」を高めるのは、私たち校長の役目です。社会に大きな変化が起こり、新たな常識が定着する「ニューノーマル」と呼ばれる時代に対応していくためにも、校長一人一人が、これまで先輩方が積み上げてこられた県連小の歴史と伝統を継承しながら、幸福度の高い持続可能な組織になることを目指し、「チーム広島」で子供たちの未来のために取り組んでまいりましょう。

終わりにになりましたが、県連小に対して最大限のご支援・ご協力をいただいております広島県教育委員会並びに各市町教育委員会、関係機関の皆様にご感謝申し上げますとともに、広島市を含む県内四四六名の校長先生方が、幸福度の高い学校経営が実践できることを祈念いたしました。ごあいさつとさせていただきます。

(東広島市立寺西小学校)

第74回 広島県連合小学校長会総会・研究大会

とき 令和5年6月1日(木)
ところ 県民文化センター

- 1 開会式
- 2 会議
- 3 研修 「日本の教育をリードする、
広島県の小学校長に期待すること」
講師 広島県教育委員会
乳幼児教育・生涯学習担当部長(兼)参与
重森栄理様
- 4 講演 「ニューノーマル時代の学校づくりと校長の役割」
講師 湘南学園 学園長
住田昌治様
- 5 閉会式





退職校長紹介

Table listing the resignation of the school principal, including names and affiliations.

Table listing new members of the committee, organized by region (e.g., 三次市, 庄原市, 福山市).



新入会員紹介

委員会報告

委員長 石原政信

本委員会はこれまで、継続的に刊行してきた「教育調査報告書『広島県公立小学校の実態』」作成にあたり、調査方法及び活用方策に係る検討を行ってきた。

一 活動内容

令和四年度の調査項目を継承し、県内小学校における現状と課題にかかわる調査として、「白書の調査」を作成する。

調査結果の集計、分析を実施、課題の整理を行い、課題改善のために必要なことについて提言をまとめ、県連小総務会並びに理事会に提出する。

二 活動計画の概要

四月 各委員選出・活動方針・活動内容の検討・活動計画確認、調査項目の検討、調査方法の確認

五月 調査実施

六月七月 調査結果のまとめに係る役割分担、結果集計、結果のまとめ、考察内容の検討、報告書案の検討

九月十月 「教育調査」報告書の作成・発行・配布、県教委への要望書作成

十二月 次年度実施調査内容等の検討と実施に係る計画等の作成、申し込み事項の確認

一月 次年度の方向性の確認 (尾道市立日比崎小学校)

人事給与委員会

委員長 阿部 貴志

四月末の第一回全体委員会において、昨年度末の検討事項や申し合せ事項等を踏まえ、本年度の役員を選出し、活動方針・活動計画等を決定した。その主な内容は次のとおりである。

一 活動方針

県連小の活動方針を受け、次のように設定した。

- 人材育成方針・体制のもと、教職員としての使命感や倫理観、実践的指導力などの向上に努める。
 - 教職員の職責に相応する適正な処遇が得られるように努める。
- 教育改革の趣旨に添った校長を中心とした学校経営が進むよう、とりわけ、本委員会においては、人事・給与面で裁量の幅が広がるよう努力していきたい。また、市町の教育委員会と校長会との連携を深め、より望ましい学校経営に寄与していきたい。

二 活動計画の概要

四月

- 役員選出・活動方針・活動計画・研修内容についての決定

六月～八月

- グーグルフォームを活用した実態調査の集約・分析・考察・懇談会資料の作成

十月～十二月

- 児童の転校についての調査依頼
- 本年度の活動のまとめと次年度の課題について
- 人材育成等に係る研修会
- 次年度実態調査の検討
- 児童の転出調査と学校間連絡
- 一月
- 次年度活動方針・活動計画の作成
(呉市立昭和西小学校)

教育研究委員会

委員長 簀戸 浩之

本委員会では、研究主題「自ら未来を拓き ともに生きる豊かな社会を創る 日本人の育成を目指す小学校教育の推進」、副主題「夢や志をもち 他者と協働して 主体的に新たな価値を創り出す子どもを育成する学校経営」に基づき、第一回全体委員会で令和五年度の活動方針、活動計画を次のように決定した。

一 活動方針

研究主題の具現化を図るために、五つの研究領域から十の研究課題を設け、さらに研究の視点を明確にして、各組織団体において積極的に研究実践を行う。

その成果を広島県連合小学校長会研究集録『もみじ』に掲載し、研究の一層の深化を図る。

二 活動計画の概要

十六地区の各組織団体で行われる研究実践の交流の場として、年に三回の全体委員会を行う。特に今年度は、広島県教育委員会義務教育指導課 松尾真理教育指導監を講師として招聘し、研修を深める。また、『もみじ』作成に向け、小委員会の開催を予定している。本年度の主な研究大会として、第七十五回全連小研究協議会東京大会（十月十九日から二〇日）、第七〇回中国地区小学校長会教育研究大会鳥取大会（十一月一日）、第二十三回広島県公立小学校長会連合会研究大会（十二月二十五日）が開催される。会員の皆様の積極的な参加をお願いしたい。

なお、次年度は、広島県連合小学校長会東部地区大会が開催される予定である。会員は一層の研鑽に努め、県民の負託に応えたい。

(福山市立川口東小学校)

広報委員会

委員長 栢野 浩未

本委員会では、第一回（四月）広報委員会において、役員の選出を行い、令和五年度の活動方針、活動計画を次のように決定した。

一 活動方針

- 県連小・各機関の会議・会合の審議決定並びに実施状況について迅速的確に伝達する。
- 会員の意思や、校長会の活動を収集伝達し、交流を図る。
- 会員及び校長会に、職務遂行、資質向上、学校経営充実に生かせる情報を提供する。

二 活動計画の概要

- ① 会報二回
(第一九二号・第一九三号)の発行(校長にはメール配信とする)

会報には、トピックス、あいさつ、退・新任校長紹介、委員会報告、地区校長会報告、学校経営、朝会講話、県教委だより、随想などを掲載する。
(七月・十二月)

- ② 研究集録「もみじ」(令和五年度版第三十四号)の発行
(三月)

- ③ 速報の発行・配付
・県連小速報 年四回程度

- ④ 全連小「小学校時報」への寄稿
テーマに従い執筆依頼・連絡などをを行う。
(東広島市立高屋西小学校)

朝会講話

「すてきな西つ子」になろう

理事 吉岡康行

今年度の海田西小学校の目標は、「『すてきな』西つ子になろう」です。「す」「て」「き」「な」の文字で始まる言葉を目標にしていきたいと思います。

「す」は、「素直な子になろう」です。「素直」とは、人に言われたことや、やらないといけないことを進んでできることです。勉強でもお手伝いでも、友達と遊ぶときでも、「自分で考える力」を大切にして、「素直な」人になれるといいですね。

「て」は、「手を挙げて発表しよう」です。学校での勉強は、先生のお話を聞いて自分で考える授業もありますが、互いに自分の意見を出し合うことが大切です。先生に当てられて発表するのはなく、自分から進んで、「手を挙げて発表」できる人になりましょう。

「き」は、「気持ちの良い挨拶をしよう」です。校長先生が、これまでみなさんになつとお話してきているように、いつでもだれにでも「自分から進んで」挨拶のできる人になつてほしいです。

「な」は、「何ごとも最後までやりきる」です。勉強でも、お手伝いでも、

習い事でも、自分で決めたり、家族で決めたりしたことなど、やると決めたことは、途中であきらめず、最後まで粘り強くやりきれぬ人になつてほしいです。

これらの文字を繋げると「すてきな西つ子」になります。この目標に向かつて頑張つてほしいです。

また、それぞれの学級でも、先生と一緒に自分たちのできる「すてきな」の文字を使った目標を話し合つてみてください。

(海田町立海田西小学校)

「チャレンジし 学ぶことを楽しむ子」

会員 深井美紀

今年芸北小学校の皆さんに目指して

ほしいことが三つあります。「チャレンジし 学ぶことを楽しむ子・思いを伝え合う子・芸北がすきな子」です。そのうち一つ目の「チャレンジし 学ぶことを楽しむ子」について皆さんと一緒に考えたいと思います。皆さんには今チャレンジしていることやチャレンジしてみたいことがありますか。勉強、スポーツ、生活のこと、やったことがないこと、できなかったこと・・・いろいろなことが思い浮かぶと思います。やってみたくはないからと迷っている人もいるかもしれません。また挑戦して

もうまくいかなかったり、途中でやめなくなったりすることもあるかもしれません。そんな時でも勇気を出してまづはやってみましょう。そして何度でもあきらめず。

「失敗は成功のもと」と言われます。成功より失敗から学ぶことの方が何倍も大きいからです。学校は安心して間違える所であり、頑張ることを学ぶ所です。目指す姿を描いてチャレンジし、うまくいかなかったら、なぜ・どうしてと自分を振り返り、次の作戦をたて、またやってみることを繰り返してください。芸北小の生活や総合で学習している「えがく・やってみる・ふりかえる」の学び方をここで使つて下さい。

先生達は、皆さんがチャレンジすることでも身に付く力が五年後・十年後になつても通用するものとなるように優しく、時に厳しく指導し応援します。

三学期には皆さんからチャレンジした話をたくさん聞かせてください。楽しみに待っています。

(北広島町立芸北小学校)

「和顔愛語」

笑顔で優しい話し方のできる人に

理事 衛藤朋弘

今日は、私がずっと大切にしている「和顔愛語」という言葉について話します。この言葉は、私が尊敬している先生から教えていただいた言葉です。そ

れ以来ずっと大切にしてきた言葉で、これからも一生大切にしていこうと思つている言葉です。この言葉には、「人に対して、おだやかな笑顔と思いやりのある優しい話し方で接すること」という意味が込められています。人はしんどいと笑わなくなりません。嫌なことがあると、愚痴を言つてしまつたり、人にきつく当たつたりしてしまつたり、と、笑顔を忘れ、友達にきつく当たつてしまったことがあると思います。でも、それでは自分も周りの人も幸せになることはありません。皆さんには、自分も周りの人も幸せになるにはどうしたらよいか考えられる人になつてほしいと思います。人から幸せにしてもらおうと待つのではなく、人に幸せを届けられる人であつてください。笑顔はその第一歩です。まず自分から笑顔と優しい言葉で周りの人に接していきましよう。笑顔で相手に優しい言葉かけると相手はその言葉によつて心が明るくなり、幸せを感じます。その行動や言葉が、自然と周りの人の心を明るくし、そして、自分の心も幸せにしてくれます。

「和顔愛語」、笑顔で優しい話し方のできる人になつてください。皆さん一人一人が相手を思いやり、自分も友達も大切にしながら日々の生活を送り、友達も自分も大切にされる学級学校をみんなで作上げていきましょう。

(尾道市立因島南小学校)

委 員 会 教 育 だ

新たな家庭教育支援の取組 ～アウトリーチ型家庭教育支援～

広島県教育委員会 生涯学習課長 桑原智津子

「家庭教育」は全ての教育の出発点である。教育基本法における家庭教育に関するポイントは三つあり、一つ目は、保護者が子の教育について第一義的責任を有するものであること、二つ目は、国や地方公共団体が家庭教育支援に努めるべきとされていること、三つ目は、学校・家庭・地域それぞれが連携・協力していく必要がある、ということである。第一義的には、保護者（親）が責任を持つとしても、近年、核家族化やひとり親家庭の増加、地域のつながりの希薄化などによる地域全体で親子の学びや育ちを支える地域力の低下など、家庭教育が困難な現状が指摘されている。親が、それぞれの家庭の努力にのみ頼って家庭教育を行うには限界があり、身近な地域から「支援」をしていくことが求められている。

こうした中、県教育委員会では、今年度、子育てで様々な課題を抱えながらも困り感がなかったり、地域社会から孤立していたりして、自ら相談の場などの「参加型の支援」にアクセスしない、又はアクセスが難しいといった「支援が届きにくい家庭」に対し、身近な地域の人材で構成された「家庭教育支援チーム」等による「届ける支援（アウトリーチ型家庭教育支援）」に取

り組むこととしている。チームが、学校、教育委員会などの行政機関や福祉機関とも連携しながら、従来から行っている学びの場の提供や地域の居場所づくりに加え、保護者が集う場に訪問し、情報の提供や相談対応などの支援を届けることにより、子育ての悩みや不安を相談できる人が身近にいる保護者の割合を高めていきたいと考えている。

「届ける支援」の形は、地域の実情に応じて様々であるが、例えば、幼児教育から学校教育へ環境が大きく変わり不安も大きくなる小学校一年生の保護者をターゲットとすることが有効ではないかと考えている。こうした活動を行う上で、学校との連携は必要不可欠である。是非、御理解・御協力をお願いしたい。

随 想

「心の元気」を育てよう

副会長 山田幸治

令和四年の小中高生の自殺者が過去最高の五二二人になり、文部科学大臣から、新年度を迎えるに当たり、自殺予防のメッセージが発せられた。

学校は、子供の「命」としっかりと向き合い、いじめや安全などの問題に適切に取り組む、子供の「命」を守らなければならぬ。

私が、道徳担当の指導主事の時、指定校の生徒が書いた作文を今でも大切にしている。その内容は、次のとおりだ。

『思春期を迎えた子供の自殺のニュースを見てみると嫌になる。しかし、私もその中に加わろうとしていた。でも、そんな私にも本音を言える時があった。それは道徳の授業。私が本音で向き合

える唯一の時間。週に一度、自分の本音をぶつけることによって、少しずつだけ心が軽くなった。

道徳で学習することや先生の言われることは、最初はきれいごとにしかならなかつた。しかし、その話にじっくりと耳を傾けていくうちに自分でも不思議なことに、言葉がすんと胸におさまった。すると自分の気持ちも急に楽になり、自分の思いをみんなの前で発表しようという気持ちになった。

道徳で、全部が癒せるわけではないが、私に与える影響は大きかった。だから私は今生きているのだと思う。

今は、いろいろなことに挑戦している。道徳に出会えて本当に良かった。

私は今、幸せだ。』

道徳の研修会で、この作文を紹介しながら道徳の大切さを伝え、子供たちの「心の元気」を育てていこうと話していたことを思い出す。

あ と が き

(呉市立広南小学校)

新型コロナウイルス感染症が令和五年五月八日付けで、五類感染症に移行し、今年度の総会・研究大会は四年ぶりに参集での開催となりました。

これまでの感染拡大防止と学校教育活動の継続に、校長先生方の大変なご苦労があったことと思います。このようなか、会報一九二号が発行できましたことは、ひとえに皆様方のおかげと感謝しております。

県連小広報活動が、少しでも皆様の学校経営の充実に資するよう引き続き努力して参りたいと思います。

一年間、皆様のご協力を宜しくお願い致します。